新町前遺跡の発掘調査概報

新町前遺跡の発掘調査は、峡南地域にある市川高校、増穂商業高校、峡南高校の３校を統合して新設される新高校の校舎建設に先立つ記録保存を目的とした発掘調査である。調査の結果、現在の地表面下約1.8mにおいて今から約500～600年前の水田跡が、地表面下約2.3mにおいて今から約1,000～1,100年前の集落跡が見つかった。地中深く眠っていた新町前遺跡から、知られざる古代市川大門地域のすがたを垣間見る――――。

SITE. 1 平安時代の集落跡

平安時代の遺構検出状況（上空から）

平安時代の人々が暮らした竪穴建物跡

平安時代の人々は、地面を方形に掘り込み、柱を立てて屋根を葺く竪穴建物跡に暮らした。
新町前遺跡では、10世紀～11世紀にかけて、43軒の竪穴建物跡が見つかった。

▶竪穴建物跡には、火をおこし、煮炊きをするためのカマドが設置される（８号竪穴建物跡カマド）。

集落を流れる川

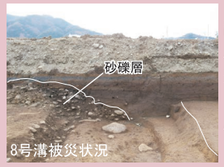
調査区の中央には、南北方向に川（8号溝）が流れている。川底からは、10世紀代の土器が多く出土しており、集落と同時に存在した川であることがわかる。
この川は11世紀前半には埋没しており、埋没後にも新たに竪穴建物跡が建てられている。

▶8号溝出土遺物（一部）。土師器坏や甕、羽釜、須恵器甕、灰釉陶器碗など、器種は多岐に渡る。

集落を区画する大溝

調査区の東端には、幅約4.3m×深さ2.0mの直線に延びる大溝が見つかった。
断面形はV字状で、人為的に掘り込まれた可能性があり、集落を区画するための溝であると考えられる。
埋没過程で径約20cmの礫が大量に入り込んでいるため、河川氾濫より前には存在していると考えられる。

集落を襲った河川氾濫の痕跡



調査区では、筋状に広がる砂礫の広がりを確認した。河川氾濫に由来するものであり、10世紀代の川（8号溝）の東岸が削られて、川底に砂礫が流れ込んでいる。

このことから、川が流れていた時期に発災したものであり、同時に存在した集落を襲ったと推測できる。
また、砂礫層の上には新たに竪穴建物跡が建っており、被災後もこの集落に住み続けている。

解説．新町前遺跡における平安時代集落の履歴

新町前遺跡に人が住み始めるのは、今から約1,100年前（10世紀前半頃）。この時代の庶民たちは、教科書に載っているような貴族たちの優美な暮らしぶりとは全く異なり、質素な竪穴建物で生活を営んでいました。

10世紀の終わり～11世紀前半頃、この集落は、調査区の真ん中を流れる川を破壊するほどの大きな河川氾濫に被災し、いくつかの竪穴建物が巻き込まれたと考えられます。

新町前遺跡の住民は、この水害にも負けることなく、氾濫原の礫層を掘り込んで竪穴建物を造り、この場所に住み続けます。11世紀が終わる頃には、この集落は断絶してしまい、この地に人が暮らしていたということは、忘れ去られてしまいます。

SITE. 2 中世の水田跡

中世の水田検出状況（上空から）

中世の水田跡と水田面に残された足跡

新町前遺跡では、畦畔で区画された水田が15枚見つかった。水田の耕作土から出土した土器の年代から、15世紀頃に営農されたものである。

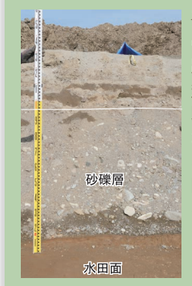
▶水田面の土を薄く削っていくと、耕作土に砂混じりの足形が検出した。新町前遺跡では、ほとんどの水田面から無数の足跡が見つかった。

水田に水を引き入れる用水路

水田の真ん中に、幅約30cmの水路が流れる。取水口が存在し、水田耕作のための用水路であることがわかった。

▶取水口は、円礫を両側に据えた石組みで構築される。

忘れ去られた新町前遺跡



発掘調査により水田の上には約１ｍもの厚さの砂礫の堆積を確認した。用水路が破壊されており、この河川氾濫の規模の大きさがよくわかる。
以降、この地域における水田耕作は行われなくなり、この場所に水田が存在したことも忘れ去られていく。

▶用水路の護岸が河川氾濫によってえぐり取られている様子。

解説．水害と戦った新町前遺跡の住民たち

平安時代の集落が断絶して数百年が経過した頃、同じ土地に水田が営まれるようになります。水田に水が行きわたるように用水路を整備するなど、水田耕作に費やした労力は多大なものであったでしょう。

しかし、この水田も大規模な河川氾濫によって、地中深くに埋没してしまいます。この場所に人々が暮らし始めてから現在に至るまで、幾度もの河川の氾濫がこの地を襲ったことでしょう。それを乗り越えて、今、この場所に市川三郷町の中心地があることを、忘れないで欲しいと思います。

地域の歴史理解へのステップ

埋蔵文化財センターでは、「発掘体験セミナー」や「現地説明会」などのイベントを実施しています。

新町前遺跡では、埋蔵文化財に対する理解と地域の歴史への興味・関心の促進のため、10月～12月に毎月１回ずつ、発掘体験セミナーと現地説明会を実施し、現地説明会では、延べ287名の参加がありました。
現地説明会にたくさんの人が参加してくれたことは、地域の歴史に対する関心の高さであり、私たち職員もうれしく思います。

今回の発掘調査の成果を、地域の歴史を積み上げていく一つの材料として、地域の価値を高め、守り、次世代へ引き継いでいってください。

▸左：発掘体験セミナーのようす
▸下：現地説明会のようす